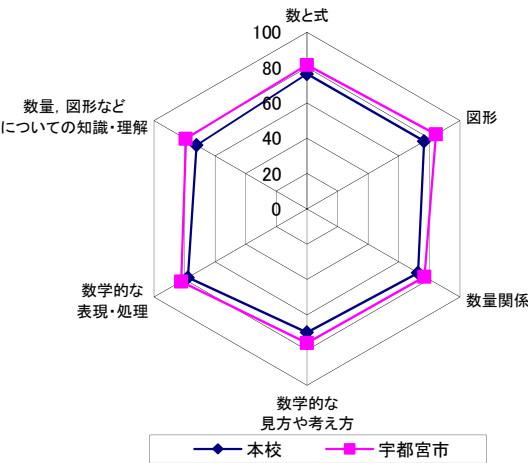


宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	76.4	81.5
	図形	76.6	84.3
	数量関係	72.6	76.8
観点別	数学的な見方や考え方	70.0	76.0
	数学的な表現・処理	77.8	82.3
	数量、図形などについての知識・理解	72.2	79.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (76.4%)	全体的に宇都宮市の平均正答率より低い。特に平方根の加減および平方根の変形における平均正答率が59.5%、58.2%と低く、理解が不十分である。単項式と多項式の乗法や平方根の乗法、式の展開や素因数分解といった基礎基本の問題正答率は80～90%と高く、宇都宮市の平均正答率と同等または上回っている問題もあり、基礎基本の定着も見られる。	ルートは新しい数を表す記号であり、これを用いると十分に表し得ない数を簡潔に表現することができるわけであるが、第1学年における文字と同様、さらに慎重に扱っていく必要がある。平方根を用いて表したり処理したりすることを通して、事象についての考察を深められるようにすることが大切である。
図形 (76.6%)	他の領域と比較すると最も平均正答率が高いが、全体的には宇都宮市の平均正答率より低い。特に三角形の相似比に関する問題や円周角の定理に関する問題の平均正答率が宇都宮市の平均正答率よりも低く、理解が不十分である。	三角形の相似比に関する問題や円周角の定理に関する問題を繰り返し授業で扱っていくことで、さらに学習内容の定着を図っていくことに重点をおく必要がある。
数量関係 (72.6%)	全体的に宇都宮市の平均正答率より低い。特に2乗に比例する関数の変化の割合に関する問題の平均正答率が最も低く、宇都宮市の平均正答率よりも低い。2乗に比例する関数の比例定数や式、グラフなどに関する問題の平均正答率は80%近くあり、よく理解されている。	関数的な見方・考え方を苦手とする生徒が多いため、2年時や3年時においても、1年時の領域(比例・反比例)から反復しながら系統的に授業で取り扱うことに引き続き重点をおく必要がある。特に変域や変化の割合、文章題などの問題を丁寧に取り扱い、十分な理解を今後も促していく必要がある。